

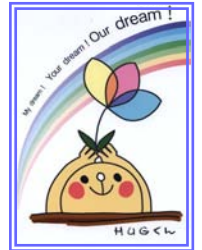
第3号

# はぐくみ

—上伊那農業高等学校定時制の跡地に青少年支援センターを創ろう—

## 上伊那青少年支援センター設立プロジェクト 研修視察会報告

日時：2011年1月26日

場所：川崎市子ども夢パーク・フリースペースえん（川崎市高津区）  
神奈川県青少年サポートプラザ（横浜市 西区 紅葉ヶ丘）目的：先駆的な取り組みを実際に見聞きし学びを深め合い、共通の認識に立って  
上伊那青少年支援センター設立を目指すことができるようにする。

### 川崎市 子ども夢パーク



1月26日（水）朝5時30分に伊那市を出発しました。

青少年支援センター設立プロジェクト委員と上伊那子どもサポートセンター＆フリーキッズ・ヴィレッジのスタッフと若者たち17人で行ってきました。お天気にも恵まれ、渋滞もなく順調に視察研修に行ってきたことができました。素晴らしい一日の報告をさせていただきます。

川崎市にある、子ども夢パークへ到着！

駅前徒歩3分の好条件の場所に、広大な敷地。

そして、立派な建物…そして年齢を問わずに遊べる場所になっています。

子ども達の遊び心がいっぱい感じられるんですね。 さっそく…おじゃましましたよ。



壁という壁はアートでいっぱい！ 日々進化するという夢パーク

川崎市では「子どもの権利条約」を条例にしました。  
 その時、2年間200回の会議を積み重ねて条例を策定。でも、それを絵に描いた餅で終わらせないために…と拠点を作ったのが「夢パーク」。未就園児親子も、不登校の小中学生、ひきこもりの青少年、精神・身体に障がいを持つ人たち…みんなが集える場。つながって、ひろがる場。

「自己肯定感」「自己有用感」が持てなくて、悩む若者たち。ありのまま、そのままの自分を受け入れてもらうことで、自分が「このままでいい」「生きていることだけで素晴らしい」ことを受け入れられるようになる。そして、自然と社会へ入っていけるようになるんだと。



西野所長のお話を聞きました。



大根が干してありました☀↑



川崎子ども会議の部屋 ↑



全天候型のスポーツ施設 ↑



## だれもが「生きている」ただそれだけで祝福される そんな場をみんなで作っていききたい

スタッフのみなさんの想いと願いが詰まった場所。そして、思いがかなう…そんな場所だなあ～と思いました。「働かなくては」「社会に出なければ」ではなく、ありのままをまず受け入れること。そして、何かひとつでもやりたいことを見つけて取り組んでみる。その延長に「就労」「社会」があるなしに関わらず、まず自分らしい生き方ができるようになることを、一緒に考えながら歩んでくれるスタッフのみなさん。

### 「川崎市子どもの権利に関する条例」の制定 (2000年12月)・施行(2001年4月)

【子ども夢パークの条文上の根拠規定】

**第27条** 子どもには、ありのままの自分であること、休息して自分を取り戻すこと、自由に遊び、若しくは活動すること、又は安心して人間関係をつくり合うことができる場所(以下「居場所」という。)が大切であることを考慮し、市は、居場所についての考え方の普及並びに居場所の確保及びその存続に努めるものとする。



プレイパーク常 「ケガと弁当は自分持ち」で、何をやってもいい、遊び場。冒険してもしなくても自由だけど…やりたいよね！



工具箱



石焼きピザ釜

地下水をポンプでくみ上げて、あったかい時期にはここに池が登場します。着替えを持って、毎日泥んこで水遊び…「あぶないからだめ」「けがするからだめ」なんて、誰も言わない。どうしたらけがをしないか、安全に遊べるか、どんどんアイデアを思いつくのが子どもの感性。そして、ヒントを出してくれるプレイリーダーさん。

子ども達が考え、自主的に自由な発想で…毎日進化しているプレイパーク。一つひとつの手作りの遊具から子どもたちの息づかいが伝わってきます。



## 「フリースペース えん」

(NPO法人 たまりば)



おいしい昼食↑

部屋の様子↓



藍染作業中↑

そして居場所としての「フリースペース えん」。毎日大勢の、いろいろな人たちが通ってきます。そして、みんなでお昼ご飯やおやつを作り、一緒に食べています。

何をしてもいい、何もなくてもいい、何かしたくなったらすればいい。でもきっと、何かしたくなる…んですね。

元気になれない。周りから否定される前に、自分で自分を否定している、それじゃ元気が出るわけがないんですよね。毎日に感謝。生きていることに感謝。自分は自分。このままでOK！そう、心から思えて初めて、最初の一歩を出してみる勇気が出てくるのではないのでしょうか。

いろいろな人が、立場を超えて、一緒にそこに居る。お互いをあたたかく認め合って、同じ時間を過ごす。自分を否定することをやめ、自分を認め、自分なりの生き方を考える。そのお手伝いをしてくれるスタッフが居てくれる。なんて、幸せな空間なんでしょう！

年齢制限のない、こんな施設が成立するとは…。川崎市という人口規模だから出来ていることだとは理解しますが、信州でも何か見習うことはできるでしょう。少なくとも、このスタッフの理念というか、考え方・感性は伝えたいと思いました。



## オーガニック・カフェ「たまりばーる」を見学して

フリーキッズ・ヴィレッジ あやの

見学に行って見て私は色々な事が分かりました。最初に子ども夢パークに行って見て私は感じた事がいくつかあります。私が一番に印象に残ったのはスタッフの体制です。夜終わってからもミーティングをしている事がすごいいいと思いました。

私も将来プレーパーク、夢パークみたいな所で仕事してみたいと思いました。そう思ったのはフリーキッズに来てのりたけに出逢ったからです。

のりたけは誰でも受け入れ話を聞いてくれて一緒に考えてくれます。そんなのりたけみたいになりたいと思いました。



たまりばーるに行ってすごく勉強になりました。

今、伊那でもフリーキッズとサポートセンターで協力して自立支援活動の一環としてカフェを作ろうと頑張っています。私は今年1年お金を貯めてタイに行ってフリーキッズに帰ってきて

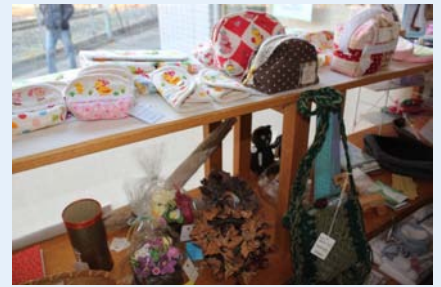
からフリーキッズでもカフェを開きたいという夢があるので「たまりばーる」の見学はすごく私にとって大きなものになりました。

今回の研修会に参加してみて感じた事は、何をするにもお金がかかるということです。

その中でどう使うかを考えてどう生活するかをきちんと考えていきたいです。

今の日本はすごく贅沢な生活ができていると思います。他の国では食べ物もろくにももらえない、勉強したいのにお金がなくて学校にも通えない子どもも沢山居ます。

だからまだ日本は生活に困るといところまでいっていないのだからお金の使い道をきちんと考えて生活していきたいです。私も頑張っていきたいです。ありがとうございました。



◇発芽玄米ご飯 ◇にんじんのきんぴら ◇小松菜のしょうがあえ ◇卵焼き  
◇せりのおひたし ◇ふるふきだいこん木の芽味噌  
◇カレー味の五目おから



## 視察に参加して

上伊那青少年支援センター設立プロジェクトメイト 宮沢睦子

定時制高校のドキュメント「月あかりの下で」を観ながら、不登校、家庭環境等様々な困難な状況がある中で「子ども」達はなぜ高校へ通うのだろうか、ひとつひとつのエピソードの中で考えていました。勉強（カリキュラム）をしなくても、定時制高校だけが、「安心できる居場所」だから、そして、そこに居られる4年間に何を学ぶかは周りの大人の支援で「目標を持っている」だから、学校最後の卒業式は「晴れの場」であり、生きていくために、どこにたどり着けるかのステップからジャンプに変わる時だから、喜びとともに感動が伝わってきました。

もっと多くの人にも見て欲しい… そんなことを思っていた頃、「川崎市子ども夢パーク」の視察と神奈川県少年サポートプラザで研修会が行われ、参加させていただきました。

駅の近く、そして町の中に広々と夢パークはありました。こんな場所にできるものなのだと、驚き、私達の地域にも、青少年を健全に育てるために、「居場所」と「支援」づくりの実践を行っている川崎市のような施設の必要性を感じました。

上伊那子どもサポートセンターの活動に参加させていただき、「子ども」の喜びは「地域」の喜びであることを再認識させていただきました。上伊那青少年支援センター設立プロジェクトの活動が上伊那地区の各行政をはじめとする福祉、教育関係者の皆さんに理解をいただき、「西山に沈んでも、月を照らして夜に光を与えてくれるお日様のような」センター創りが一歩ずつ前進できることを願います。



**たまりばーる** は、NPO法人「たまりば」が共同経営しています。夢パークのある「津田山駅」のお隣の「久地駅」にあります。夢パークで制作したものを販売するアンテナショップでもあります。とっても可愛いディスプレイ。次回は、ゆっくりおじゃましたいと思います。

## 研修に参加して

上伊那子どもサポートセンター 学習支援スタッフ 松下 久美子

今回の研修で、地域に暮らす子どもの居場所を作るためにはどんなことが必要なのか、改めて考えさせられました。

川崎市では、大人も子供も交えての二百回を超える話し合い（意見交換）のもとに「川崎市子どもの権利に関する条例」が制定されていました。そして子ども夢パークではさらに、そこから「川崎市子ども夢パーク条例」を定めたと知り、子供を守っていこうとする大人の覚悟に感じ入りました。子供の権利とは何か、子供のあるべき姿とは、いったいどんな姿なのかを、今一度地域で考えるべきだと思いました。まずは、子どもサポートだけではなく、上伊那地区の子供に携わる団体がともに話し合いの場を持つことが大切です。お互いの主義主張を述べるのではなく「子ども」のことを第一に考えた話し合いです。心（内面）の充実なくして建物・場所を作ってもきっと地域に根付いていかない＝子供の気持ちから離

れてしまう…と思います。

もう一つ、子供の居場所を支える大人たちについて考えました。地域に暮らすいろんな子どもたちが分け隔てなく遊び、学べる空間には、見守る事ができる大人が必要です。様々な子どもが集う空間に、心にエネルギーがなくなってしまうたり、精神疾患を抱えていたり、発達障害をもつ子供や若者、その家族が安心して過ごせる空間、誰もが心休まる場所があることも必要です。が、そのような空間を作るのには量り知れない気遣いや優しさ、努力、忍耐、が必要です。そのためにも、居場所を支える大人を育成していく事も、とても大切になると思いました。

子どもの権利とは何か、とことん考える事と、それを守っていく事が、居場所作りには大切であり、そのためには、行政と市民がもっと力を合わせることも大切なのだ・・・と、考える事ができた研修でした。

## 視察・研修を終えて思うこと

上伊那子どもサポートセンター はみんぐ ユーコパパ

この視察には、娘と一緒に参加しました。周りは、皆さん熱心な心を持つ人ばかりで頼もしく思い、これはいつか行政にも伝わり実現すると確信しました。

また、これからもさらに賛同者を増やし将来を見据えた人材の育成も必要だと思いました。

夢パークの西野さんの分かり易い説明も良かったです。できれば、通って来ている人の意見も聞いてみたいと思いました。夢パークは、何とも立派な施設で、あの都会で広大な敷地を確保できたことや、自治体との合体を実現したことに感動!!

午後の長谷川俊雄氏の名司会進行で若者たちの体験談を非常に興味深く聞かせていただき、是非他の若者にも聞いてもらいたいと思いました。あの若者たちは、運良くたまたま良いスタッフや居場所に出会い、立ち直ったんだなあと…また、周りの家族友人すべての人たちの助けもあったのだと思います。しかし、忘れてはいけません。言葉は悪いけれど、そこにも合わず、去って行った若者がいることを…。

私たちの周辺にも、今の学校、会社組織から弾き出される人間が増える一方。それに対応できる受け皿が充実していないのが現実です。受け皿がないことには、たとえカウンセラーが何百人いても、意味がありません。

また、受け皿と同時に、本人にたとえ「ウザい」と言われ続けてもあきらめない熱い志を持って寄り添えるような人材育成も必要です。

一般住民にも不登校・ひきこもりを理解し、協力してもらえるような啓蒙活動をして、一刻も早く、青少年支援センターの設置を望みます。私も、ささやかではありますが、この活動を見守り、手助けをしていきたいと強く思います。

子ども夢パーク  
ながーい建物 →



←フリースペース  
えん

# ひきこもり等青少年の自立支援の取り組みに関する事例発表会

神奈川県は、全国に先駆けて「不登校・ひきこもり・ニート」などの青少年自立支援の先進地。毎年3つの民間団体に事業を委託し、自立支援策を行っているのです。今日はその事例発表会があり、視察に組み込むことができました。80名ほどの参加者、会場はいっぱいでした。

第一部として、3つのNPOの取り組みを、それぞれの団体のスタッフの方、活動に参加された方から発表されました。

○ NPO法人 月一の会

宿泊研修、職場体験、実行委員会による地域活動

○ NPO法人 子どもと生活文化協会（CLCA）

小田原市内の小学校の学校農園や、それを取り巻く地域の農業や食に関する活動を取材。記録をまとめて映像化。

映画会を実施して、地域を活性化させる活動につなげている。

○ NPO法人 コロンブスアカデミー

若者による子ども達への学習支援。

休憩時間。1階の情報コーナーでは、各団体のみなさんが取り扱っている製品を販売してくださいました。そして、たくさんの情報やリーフレットを集めさせていただきました。こういう情報が一か所に集まっている場所があると良いですね…。

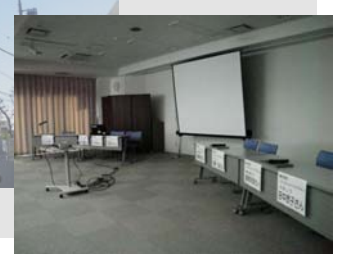
後半は白梅大学の長谷川先生をコーディネーターに、さらに深く掘り下げる質疑応答。自分自身の変化、まわりのこと、どんな社会であればいいのか…そんなことを探っていく時間でした。



青少年に関するあらゆる情報を得られるコーナー



県立青少年サポートプラザ↑



- その活動に参加したきっかけは？
- 親や周りの人のかかわりはどうだった？
- どうして、自分が変わったと思う？

主に活動に参加された3人の方に質問。もちろん、長谷川先生ご自身ずっと若者の自立支援に関わっていられているので、言葉のひとつひとつに気を遣われてるな〜と思いながら聞き入りました。同じ「ひきこもり」という言葉で言われる状態でも、人それぞれひとりひとり原因も症状も、感情もきっかけも違う訳で…でも、同じ「市民」なんだと。大人も子どもも年配者も、障がいを持っていても、不登校でも、ひきこもっていても、そのサポートをしていても、やっぱり同じ「市民」なんだと。完璧を目指しても良いけど、完璧になる必要なんてないし、みんな不完全。それでいいんだ。自分が人間として、自分に出来ることを何か少しだけ無理してやってみると、それが実は社会や地域とつながって、誰かの役に立っていく。つながることで開ける。つながることが広がる。

最後に、長谷川先生がまとめてくださったこと。

- (1) つながることで開かれていく
- (2) 大事なのは、本人の周りにどれだけゆとりを持った  
他者が存在するか、かかわる側のゆとりが大切
- (3) 各団体が独自のミッション性を追求していくこと  
利潤利益ではなく、ミッションをいつも考えること  
が安心して若者が参加できることにつながる

ゆとりを持って子ども達や若者達に寄り添って一緒に歩めるひとりの人間になりたいな…と、改めて決心！スキルアップしなくちゃですね。

夢パークの西野さん、たまりばーるの金山さん、サポートプラザで体験を発表してくださった皆さん、出会った多くの皆さん本当にありがとうございました。

(視察レポート 田村恵子)

## 事例発表会に参加して

青少年支援センター設立プロジェクト委員 パカパカ塾理事長 春日幸雄

ひきこもりの若者が、NPO法人の仲間に声をかけられ、それぞれの活動と一緒に参加した時の様子を本人とスタッフの両方で発表。

この発表だけだったら「あっそうか」とあまり胸の底に落ちないものになっていたと思う。

コーディネーターの長谷川先生が、この3名の青年また、それぞれのスタッフから貴重な生の声を引き出してくれた。

「その活動に参加してみようと思った時の気持ち、動機は？」

「ひきこもっていたり、その活動に参加したりしていた時、親からはどんな声かけがあったか？」

「自分がその活動をし終えたとき、どんな世界が広

がったか？」

人間の生き様そのものに迫る鋭い問いかけ。さあどんな応えが？！

3名とも、真正面から真摯に応えられていた姿が美しく、人間っていいなあ！と感動を与えてもらえました。

自分の体を使って、人を喜ばせてきた、人に喜んでもらえた喜びこそ、数ある喜びの中で最高で崇高なものであると感じとってきている彼らこそ、自己肯定感を持って豊かに生きられる礎をつくっていると同時に賞讃の拍手を送りたいと思った。

両方（川崎・横浜）とも、心を洗っていただける素晴らしい体験でした。



## 夢パークと事例発表会

上伊那子どもサポートセンター はみんぐ 柊 可憐

夢パーク。

説明を聞いている時、写真や映像を見ました。

子どもたちの笑顔が輝いていて、伊那市でもこういう場所があればいいなと思いました。

夢パーク内は時間がなくてあまり見学できませんでしたが、自由でのびのびできそう  
なところがすごいと思いました。



事例発表会。

自分も不登校だったので、興味がありました。

色々と実体験を聞きましたが、自分とはちょっと違う部分もあり、やはり人それぞれなんだな…と思いました。その話の中で、『完璧じゃなくていい。自分らしく生きよう』という言葉に、私は改めて気づかされました。

## 行政(川崎市・神奈川県)とNPOとの協働のもとに支援する取り組みを視察して

青少年支援センター設立プロジェクト委員 のぞみ学園 北澤 康吉

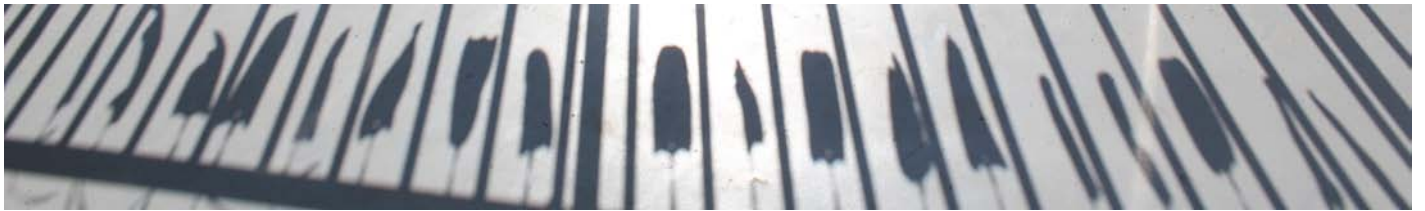
NPO法人「川崎子ども夢パーク」の視察の後、NPO法人「月一の会」他3団体の支援事例の発表会に参加した。

いずれも官民が協働して立ち上げ運営しているものである。前者が川崎市、後者が神奈川県である。その内容・規模の見事さに少なからぬ衝撃を受けた。かつて、もう10年近く前であろうか、長野県でも官民協働の画期的な企画・事業が始まり、それはまさに全国に先駆けてのものであった。「長野モデル」と呼ばれ、全国から多くの方々、団体が視察に訪れた。

それがこの間に神奈川県に大きく水を開けられて

いた。長野県では官の方の状況が変わり、きわめて困難な現状になった。それぞれの地区で苦労しながら民間の活動は続けられてきたが、こうやって改めて川崎市や神奈川県の活動に接すると、その規模の違い、内容の深さ・広さにただただため息をつくばかりである。

民間で出かけることも大事だが、県も独自で、あるいは民間と一緒に直接出かけて、その内容・規模を見てもらわなければならない。県としてはこういった規模・内容のものが他県で行われていることを知っているのであろうか。まさに「目からうろこ」の思いをして帰ってきたのだが、同じ経験を県にも直接してもらう必要がある。



## 川崎市子ども夢パーク

上伊那子どもサポートセンター はみんぐスタッフ 太田 直子

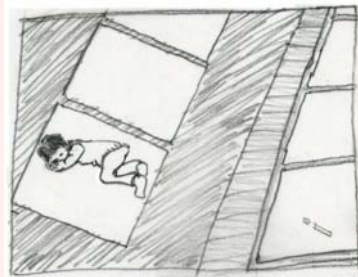
テーブルやイスも無く何の変てつも無い広い部屋、一人の少年がゴロリと横になっている。窓から差し込む冬の陽射しがつくる暖かな陽だまりといっしょに、彼はそのまま移動するのだろう。この光景を見た瞬間、私の中で時の流れる速さが変わったのかと思った。

“作り続ける建築”と所長の西野さんは話していた。「川崎市子ども夢パーク」完成形ではないが“使い手の思いが伝わってくる”印象の建物。

子どもを中心に、多くの市民が参加して実現した自由に使える施設(場所)、庭では火をおこし、土を掘り、のこぎりで材木をきざむ。大人は都合や押し付けではなく、場所と手伝いを提供し、子どもをとりまく多くの問題にも対応する。この施設を利用しているのは、子どもだけではない。音楽スタジオでは、数人の若者がバンドの練習に取り組んでいる姿も見えた。

建物の一角にある「フリースペースえん」と名づけられた場所では、年齢を問わずさまざまな人が自分たちで昼食を作って食べたり、何かしたり、何もしなかったり、それぞれに思い思いの時を過ごすと言う。

息苦しさを感じるような今、この社会。順応しにくい、生きにくいと感ずる人がいるのは当然であろう。しかし、またいつかはこの社会の中に混ざって行かなければならないのも、事実である。せめて子どもや若者に、ふっと立ち寄って心を休め、次の一歩を踏み出す準備をする場所(居場所)を提供するのは、この社会をつくって来た私たち大人の責任ではないだろうか、この「川崎市子ども夢パーク」を見て思った。

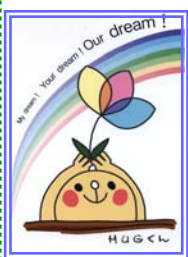


は、この社会をつくって来た私たち大人の責任ではないだろうか、この「川崎市子ども夢パーク」を見て思った。



川崎市子ども夢パーク 子どもたちの壁画

### 編集後記



夢パークを視察して、市民の思いが集れば、これだけのことができるんだという感動とともに上伊那にもこんな場所を誕生させたいという思いがふつふつと湧いてきました。

あなたも「プロジェクトメイト」になって、遊び心、子ども心を持って、楽しみながら上伊那の未来を創りませんか。学習会・催し物ご案内差し上げます。

クイズ:上の写真は何でしょう?

(ヒント…p2を見てね♪)

### 上伊那子どもサポートセンター

#### 《主な活動》

- ・相談(面談・電話・メール)・居場所運営・親の会・研修会
- ・情報の発信・地域ネットワーク構築

OPEN: 月・金(祝祭日を除く)10:00~16:00(電話受付は毎日)  
※夏季・年末年始・年度末の休みはお知らせします。

TEL/FAX: (0265)76-7627

E-mail: kodomosupportkamiina@sunny.ocn.ne.jp

URL: <http://www.kksc.org/>

〒396-0025 伊那市荒井3500-1

伊那市生涯学習センター(いなっせ) 5F



みんなの花

**上伊那青少年支援センター設立プロジェクトメイト大募集!!**  
詳しくは、上伊那子どもサポートセンターHPをご覧ください。